

4 1. 葉月 けめこ氏（北九州市文化大使）

「まわりから言われる悪いイメージに引きずられることなく、
ポテンシャルを活かしてドラマティックにとがり続けてほしい。」



葉月 けめこ（はづき けめこ）

北九州市出身。

北九州市文化大使。脚本家。1999年より雑誌ライター及び作詞家として活動。テレビ・ラジオ番組の構成作家を経て2016年に脚本家デビュー。主な作品としてNHK福岡「You May Dream」（東京ドラマアワード2018ローカルドラマ賞）、劇団青春座「若戸大橋物語」など多数。著書「北九州の逆襲」ほか。

「ドラマティックな歴史」

到津遊園の閉園反対運動の時にも感じたことですが、人々の団結力がすごいと思っています。まちは人の集合体であるので、人々の気質がまちに現れてきます。合併している歴史もあり地域によって特色も気質も違いますが、何かがあれば一致団結し、声を上げる強さがあります。

炭鉱があった時代には大勢の人が流れてきていたので、多様な人を受け入れる柔軟性もあるのではないのでしょうか。

人を助けたり応援するパワーがあるまちともいえます。北九州マラソンについて、知り合いで各地のマラソン大会に出ている人が「北九州市は沿道の応援が違う！」と言っていました。“やる気が出る応援”をしてくれるそうです。自分と直接関係のない人が走っているのに応援をしてくれるのは、すごいことではないのでしょうか。

ノリの良さ、という特徴もあります。テレビ取材などで街頭インタビューの際もサービス精神が旺盛で、カッコつけることなく受けてくれる。協力しよう、役に立ちたい、盛り上げたいという精神があるのだと思います。

そういったDNAが今後も続いてくれると良

いですね。最近、多様性を受け入れることの重要性がよく言われていますが、北九州市はその意味で最先端を行っていると思います。

「良くも悪くも、ノリが良い」

災害が少ない・物価が安い・子育てしやすいまちです。悪いイメージが先行してしまっているのですが、それはノリのよさ、サービス精神に起因しているのではないのでしょうか。ノットの方が面白い！といったような感じでしょうか。例えば、「北九州市ではコンビニに手りゅう弾が売っているの？」と言われた時も「170円で売っているよ！」とついノってしまう。マスコミも「修羅の国」といった記事を書いた方が閲覧数が伸びる。そこにそろそろ抗ってみても良いのではないのでしょうか。成人式で突飛な格好している若者も、普段真面目に働いていて、そのことを皆分かっているのですが、面白がってネタにしてしまうし、悪い噂の方が広まるのが早い。「そんなにあぶくないよ！」というイメージをつくることも重要です。折角良いものづくりや伝統があるので、そのことを知ってもらった方が良いと思います。

「絵になる場所が多い」

北九州市には絵になる場所も多いです。たくさんロケも来てもらえるし、それを嫌と言わない市民性がある。作る側からしたらありがたいことで、例えば爆破シーンが街中で撮れる場所は北九州市くらいしかなく、かなりロケ地として優位性があると思います。風景としてのポテンシャルも高いです。

地元の人にしても、普通にしゃべっている親戚のおじさんおばさんが素で面白い。癖が強いとか、サービス精神があるとか主人公にしたくなるようなキャラクターをお持ちの方が多いです。

以前、角打ちを舞台にしたラジオドラマの脚本を書いたことがあるのですが、取材で角打ちに行った際に局の担当者が「角打ちで交わされる会話がそのままドラマになる」と言っていました。カッコつけないところが面白いのかもしれないですね。

「北九州市でないと叶わないことを」

20年先は全然違う社会になっているでしょう。私の考えですが、子育てしやすいまちというのは定着してきたと思います。

北九州市は高齢化のスピードも早いので、その点に関しても整備が進んでいると思います。私の両親も病院に行っていますが、高齢者が住みやすい、ケア的な部分が充実しているのではないかと思います。高齢化社会が進んでいるので、北九州市にはリードしていただいて、民間の力を取り入れながら住みやすいまちづくりを進めてもらい、日本のモデルケースになっていただきたいです。

一方、豊かさに対する考え方も変化してきています。人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事や文化はもちろん、芸術やスポーツに親しめるなど、多様な選択をするような社会になってくるのではないのでしょうか。ミニワールドスタジアムは海外選手も褒めちぎる

スタジアムです。北九州芸術劇場も演者側がやりやすい、良い劇場とされています。松本清張記念館もですが、既にあるものを磨きながら、心のゆとりがないとできないこと、北九州市でないと叶わないことをやっていく必要があります。もっと宣伝して良いし、施設同士が連携して、ここに来れば一週間遊べる、といった企画を立てるようなことをやっても良いかもしれません。

成人式の衣装を市公認にするのも良いアイデアです。市が悪いイメージで言われることに慣れて、引け腰になってしまっていると思います。マスコミにも操作されるのではなく、情報を市側で上手くコントロールしていかないといけないのではないのでしょうか。

20年後は想像するよりもっと技術が進んで、AIがいろんなことをやっていると思いますが、人のあたたかさがもっと求められる世の中になっていくかもしれない。

新しいことを発見してやっていく力が、色々なものの発祥のまちでもあります。

「純度の高いまち」

オシャレタウンは似合わないと思います。東京みたいなこと、優等生的な立ち位置は福岡市に任せて、北九州市が好きな人に来てもらえたら良いと思います。福岡市と競争するのではなく、別のスタンスであるべきではないでしょうか。東京化するのではなく“まちの純度”が高いまま、それを保ってほしいです。